
Ⅲ 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

医学部

求める学生像

医学科

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

革新の系譜を継ぎ、医学・医療の未来を拓く

佐賀大学医学部医学科は、日本の医療の近代化をリードした佐賀藩、医学教育の刷新の旗手であった佐賀医科大学の革新の精神を継承し、多様化する社会の要請に応える優れた医療人と研究者を育成することによって、医療の質向上と医学の発展を先導することを目指しています。

そのために、以下に示すような資質を持つ学生を求めています。

- ① 医療や研究を通じて社会に貢献し、医学の発展に寄与する志
- ② 病む人に寄り添い、傾聴し共感する姿勢
- ③ 倫理観と責任感を基盤とした論理的な判断力と行動力
- ④ 専門分野の学修に不可欠な幅広い基礎学力
- ⑤ 主体的かつ協働的に学びを深める姿勢
- ⑥ 自らの考えを的確に表現し、助言や批判を柔軟に受け入れる姿勢
- ⑦ 医療や研究の国際的な動向を踏まえて学びを更新し続ける姿勢

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み】

医学は生命科学を中心に、自然科学の諸分野と人文・社会科学が密接に関わる学問です。そのため、高等学校では科目を偏ることなく幅広く履修し、基礎学力をしっかりと身につけてください。生物・化学・物理・数学の基本事項を十分に理解し、それに基づいて論理的に考える力を養うことが重要です。また、医師の社会的役割を自覚し、病む人の立場に立って考えるためには、国語や社会の力が不可欠です。世界の最新の医療情報を学び、情報を発信するためには、英語の学習は必須です。

本学科は、基礎知識の学習を、事例検討、基礎実験、臨床技能訓練、臨床実習と連動させたアクティブラーニング形式で行っています。このような学習を効果的に行うためには、コミュニケーション能力と協調性が求められます。

また、医療や医学を取り巻く社会に関心を持ち、読書やボランティア活動、医療現場に関わる先輩との交流などを通じて、自らの果たすべき役割を主体的に考える姿勢を持つことが望まれます。加えて、技術の向上や未知の問題解決には継続的な努力が不可欠です。日々の生活はもちろん、部活動や課題研究に積極的に取り組み、試行錯誤を重ねる経験を通じて、自らを見つめ、成長しようとする姿勢を身につけてください。

本学は、このような資質を備えた学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

| 選抜方法 | 目的と概要 |
|------------|---|
| 一般選抜 | 入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」により、入学者を選考します。 |
| 特別選抜 | 一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」、「佐賀県推薦」、「帰国生徒」の入試区分により、入学者を選考します。 |
| 私費外国人留学生入試 | 外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。 |

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

- ① 幅広い基礎学力
- ② 論理的思考力
- ③ 表現力とコミュニケーション力
- ④ 主体性と協働性
- ⑤ 倫理観
- ⑥ 省察と改善を重ねる姿勢
- ⑦ 医学・医療への志

| 入学後の学習に必要な能力や適性 | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
|-----------------|---------------|-------------|---------------|---|---|--------|---|---|---|
| 学力3要素との対応 | | | 「知識・技能」「思考力等」 | | | 「主体性等」 | | | |
| 選抜方法 | 前期日程 | 共通テスト (68%) | ○ | ○ | | | | | |
| | | 個別テスト (26%) | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | | 面接 (6%) | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 調査書 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 学校推薦型選抜Ⅱ | 共通テスト (75%) | ○ | ○ | | | | | |
| | | 小論文 (16%) | | ○ | ○ | | ○ | | ○ |
| | | 面接 (9%) | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 調査書・推薦書 | ○ | | | | ○ | ○ | ○ |
| | | 自己推薦書 | | | ○ | ○ | | | ○ |
| | 志願理由書(佐賀県枠のみ) | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| | 佐賀県推薦 | 共通テスト (75%) | ○ | ○ | | | | | |
| | | 小論文 (16%) | | ○ | ○ | | ○ | | ○ |
| | | 面接 (9%) | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 所信書 | | | | ○ | | | ○ |
| | | 調査書 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 帰国生徒 | 学力検査 (67%) | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| | 面接 (33%) | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 提出書類 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | |

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

求める学生像

看護学科

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 人間に関心を持ち、人々の健康と福祉に貢献したいと願う人
- ② 豊かな感性と表現力を身につけている人
- ③ 相手の立場に立って、柔軟に物事を考えられる人
- ④ 看護職に夢を持ち、理想とする看護職者を目指そうとする人
- ⑤ 幅広い基礎学力と論理的な思考力を備えている人
- ⑥ 生涯を通して、看護学や医療について勉強する意欲のある人

看護学科のカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

| カリキュラム編成 | カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等 |
|------------------------|---|
| 教養教育科目（インターフェース科目を除く。） | 自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。 |
| 教養教育科目（インターフェース科目） | 現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。 |
| 専門基礎科目 | 看護学に必要な基礎的知識として人体の構造と機能及び病態・疾病と治療を学ぶ授業科目と、関連領域の基礎的理解（看護倫理、栄養学など）や看護の道を進むための基本となる姿勢や学習方法を学ぶ授業科目（キャリアデザイン）で構成されるため、高等学校で履修する数学、理科に関する基礎的理解と応用力に加え、他の教科・科目に関する幅広い知識と技能が不可欠です。 |
| 看護専門科目 | 看護についての専門的な知識・技能に関する総合的な内容を系統的に学修する授業科目で構成し、知識の修得とともに、自己学習の習慣を身につけ、科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として実践演習型学習や少人数グループ学習を取り入れ実施するため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることが不可欠です。 |
| 臨地実習 | 看護学の知識・技術ならびに看護職者としての実践能力を修得するとともに、地域社会に要請されている医療における看護の意義を理解し、看護職者の責務への自覚を培うキャリア教育の場として、チーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として、医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下に実施するため、学んだことを実践に生かす能力や姿勢とともに、協調性やコミュニケーションを通じてチーム医療の一員として学習できる態度、姿勢および行動力を持っていることが必要です。 |

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み】

看護学は、健康な人から病をもつ人まで様々な健康レベルの人々を対象とした実践科学です。人間は身体的・精神的・社会的存在で、環境と相互作用しながら健康を維持しています。健康には、自然・人文・社会科学的要素が深く関わっているため、看護学の学習のためには、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておく必要があります。看護実践の基礎となる、看護の知識と専門的技術の修得には、特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を理解し、論理的な思考ができるようにしておく必要があります。また、看護は人間関係を通して実施されるため、文章による意思の疎通に必要な国語力や自己・他者間の理解を共有するためのコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。大学での学習は、看護の生涯学習の基盤となるため、国内外の社会に目を向け、読書やボランティア活動などの自己啓発の取組みを通じて、自ら考える積極的な姿勢が望まれます。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

| 選抜方法 | 目的と概要 |
|------|--|
| 一般選抜 | 入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。 |
| 特別選抜 | 一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」、「社会人」の入試区分により、入学者を選考します。 |

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、専門分野を理解するために必要な基本的な思考力・判断力・表現力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 資料等の理解力、科学的かつ論理的な思考力及び医療人としての人間性
- ④ 人間に関心を持ち、人々の健康と福祉に貢献しようという意欲と態度
- ⑤ 生命や医療に対する倫理観、コミュニケーション能力、チーム医療の一員となる上で不可欠な協調性
- ⑥ 看護学・医療について学ぼうとする意欲や物事に積極的に取り組む態度
- ⑦ 看護職に夢を持ち、理想とする看護職者を目指す意思

| 入学後の学習に必要な能力や適性 | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
|-----------------|-----------|---------------|----|----|--------|----|----|---|
| 学力3要素との対応 | | 「知識・技能」「思考力等」 | | | 「主体性等」 | | | |
| 選抜方法 | 前期日程 | 共通テスト | 81 | ○ | | | | |
| | | 小論文 | 12 | | ○ | | | |
| | | 面接 | | | ○ | | 7 | |
| | | 調査書 | ○ | ○ | | | ○ | |
| | 後期日程 | 共通テスト | 83 | ○ | | | | |
| | | 面接 | | | ○ | | 17 | |
| | | 調査書 | ○ | ○ | | | ○ | |
| | 学校推薦型選抜 I | 小論文 | ○ | ○ | 64 | | | |
| | | 面接 | | | | | 36 | |
| | | 調査書・推薦書 | ○ | | | | ○ | |
| 自己推薦書 | | | | | | ○ | | |
| 社会人 | 小論文 | ○ | ○ | 77 | | | | |
| | 面接 | | | ○ | | 23 | | |

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの